

# 【参考】至近の状況を踏まえたシミュレーション条件

## 共通条件

年間トリチウム放出量 (22兆ベクレル/年未満)	敷地利用計画に影響を与えない範囲で海洋放出完了が2051年度となる放出総量を設定
シミュレーション 放出開始年度	2023年度（年度ごとのシミュレーション）
ALPS処理水流量	最大約460m <sup>3</sup> /日
希釈用海水流量	約34万m <sup>3</sup> /日（海水移送ポンプ2台）
ALPS処理水 放出順序	測定・確認用設備として使用するK4タンク約3万m <sup>3</sup> をトリチウム濃度の薄い順に放出 その後、他のタンク・新規ALPS処理水は可能な限りトリチウム濃度の薄い順に放出
トリチウム減衰	半減期12.32年として考慮（1年間で約5.5%減少）、新規発生分も減衰考慮
ALPS処理水発生量	2023年度:120m <sup>3</sup> /日、2024年度:110m <sup>3</sup> /日、2025年度:100m <sup>3</sup> /日、 2026年度:90m <sup>3</sup> /日、2027年度:80m <sup>3</sup> /日、2028～2051年度:70m <sup>3</sup> /日、
放出日数	最大292日（稼働率8割）

## パラメータ

ケース	A (トリチウム総量が最も多いケース)	B (現時点の情報でトリチウム総量が最も少ないケース)
日々処理ALPS処理水 トリチウム濃度	58.9万ベクレル/l (2022/12/23、2022年度最大)	25.4万ベクレル/l (2022/4/8、2022年度最小)
建屋内トリチウム総量 (2023/3/31時点)	約1020兆ベクレル (事故時3400兆ベクレルが建屋・タワに全量残存)	約80兆ベクレル (建屋内滞留水貯水量及び濃度より推計)



# 放出シミュレーション

タンク容量・ALPS処理水等貯水量[万m<sup>3</sup>]  
年間トリチウム放出量[兆ベクレル/年]

